

050

マンションに暮らすママ発信の防災コミュニティ「南草津マンション防災委員会」

取組主体

南草津マンション防災委員会

従業員数

247人

想定災害

地震等

実施地域

滋賀県

- SNS を活用して地域の防災ネットワークの輪を広げるママ発信の防災コミュニティ。
- 子育て中のお母さんの日常的なつながりをスタート地点として、いざという時のために備える意識を高める。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

人のつながりこそ何よりの備えと考えた1人の母親が立ち上げた

- 滋賀県草津市では、駅前を中心にマンションが急増し、自治会等のない地域が増えたことから、地域の防災力低下が課題となっていた。南草津マンション防災委員会の代表は、自身の住むマンションに自治会がなく、見知らぬ土地で小さな子どもを抱えながら暮らすことに漠然とした不安を感じていたことから、発災時に備え、人と人とのつながり、絆をつくらうと南草津マンション防災委員会を立ち上げた。
- 「防災はこうあるべき」という固定概念にとらわれず、「お母さんたちができること」を自分たちの力で行動できるレベルに落とし込み、子どもたちや地域も巻き込みながら形成されたコミュニティによる取組であるため気負いがなく、「自分のこと」「日常のこと」としてとらえ、気軽に参加できることが特徴である。
- 日常的に SNS を通じてつながっているほか、月に1回から数回、市民センターやキャンプ場等を使って、防災知識の向上のための勉強会やデイキャンプ等のイベントを行い、交流を深めている。



防災デイキャンプでは、テントを組み立て非常食を調理



いつもの散歩に「もしこれが災害時なら」という目線を加えた「防災散歩」

親子の読み聞かせを通じて防災について考えるオリジナル絵本の製作

- 令和元年8月には、オリジナル防災絵本「たいせつなもの」を作成した。災害の怖さや日常生活のありがたさを子ども目線で描いており、防災とは「日常の中にある『大切なもの』を意識して守ること」であることを、親子の読み聞かせの中で考えるきっかけになればと考えている。
- また、絵本原画や写真の展示会等を通じて、自治会の範囲を超えた地域の人との関わりを持つきっかけを作り、他の地域でも同じような活動をやってみたい、やってみようとする個人が増えるように活動を続けていく考えである。



オリジナル防災絵本の作成

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- 同委員会は、平時は、「あげます もらいます ください」という名の SNS を通じた交流活動を行っている。「ほしいものをください」と発信することで、自発的に自身の生活課題を解決する「自助」を、「あげます」と発信することで、グループ内でお互いが抱える課題を解決し合う「共助」を日常的に実践し、いざという時に SOS を出す勇気、SOS を受け取る勇気をグループ全体で共有し、支え合っている。
- 同委員会の参加者からは、「防災に関する意識が向上した」、「知り合いが増えて有事の際の安心感が増した」等の防災・減災に関する効果だけでなく、「子どもの送迎や迷子等、日常の SOS が発信しやすくなった」「ママ友達の幅が広がったことで入園や進学等の相談先が増えた」「行政との関わりや、街づくりが身近になった」等、人とのつながりがもたらす様々な効果に関する声が上がっている。

3 現状の課題・今後の展開等

- 令和 2 年 1 月時点で 240 名を超えるグループになり、参加者の暮らす範囲も広がってきたため、数十名だった立ち上げ当時よりも機動性や地域性の面での変化が生じてきている。今後は、個々人がコミュニティの中心となり、防災委員会で出会った仲間を中心とした小さな集団が各方面にできていくことを目標としており、そのために、趣味や得意分野等によるコミュニティの細分化を図っている。
- 同委員会は、自治会がなくとも緩やかに地域と関わる窓口の役割として、防災絵本の読み聞かせ、地域の防災訓練への親子防災体操の講師派遣等の活動をしており、今後、これらの活動を実践できる組織作りを進めていきたいと考えている。

4 周囲の声

- 災害時に備え、人と人とのつながり、絆をつくろうと、「南草津マンション防災委員会」が立ち上げられ、助け合いの輪を広げ、住みやすく災害に強いまちづくりを進めていただいていることを大変心強く感じている。災害に強いまちづくりを進め、新たな「共助」の仕組みとして、SNS を活用した防災ネットワークの輪、コミュニティ活動の輪がさらに広がることを大いに期待している。（地方自治体職員）
- 防災・減災とは、結局、いかにして、「ふだん」（日常時）と「まさか」（災害時）を上手につなぐか、ということに尽きる。子育てお母さんの「ふだん」をスタート地点として、そこにこだわり、そこから決して離れることなく、いざというときの備えを高めるユニークな活動を展開している南草津マンション防災委員会は、まさに、「ふだん」と「まさか」のつながりを意識したすばらしい活動だと言えるだろう。（大学教授）

担当者の声

- いつかの脅威を恐れるのではなく、今ある大切な日常をどのように守るのか。日常も大切なものも個々人により異なります。平穏な時だからこそ、日常が忙しいからこそできる防災があります。自助からの視点で自らの日常を顧みること、それぞれの今がさらに暮らしやすく幸せになりますよう祈っております。

問合せ先

南草津マンション防災委員会 E-Mail : minamikusatsumansionbousai@yahoo.co.jp

動画

